



日本SPF豚協会だより

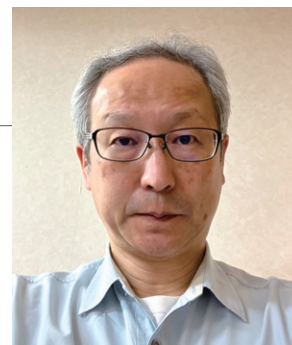
2025.4
No.99

提 言

「病気対策雑感」

前全農家畜衛生研究所研究開発室室長
獣医師

大角貴幸



2025年が始まりはや3か月が経ちました。

今冬は例年に比べ積雪が多い地域もありましたが、渡り鳥の北帰行も始まり春めいてきました。また、今年の夏も暑くなるとの予報があり、母豚の再発情や肉豚出荷の遅れ等が最小限で済めばと願っております。

養豚は病気との戦いといわれます。私がSPF農場に関わりをもって20年以上が経過しますが、関わり始めた当初と比べると、PRRSやサーコなどウイルス性の病気対策が不可欠となった感があります。また、問題となる病気を調べてみると、PRRSやサーコに加えレンサ、APPなど複数の病気が問題となっていることが当たり前となりました。

以前はウイルス性の病気が農場に浸潤しているかどうかは、ウイルス分離や抗体検査などで時間をかけて判断していましたが、近年は遺伝子検査(PCR法)という手法が実施できるようになり、短い時間で病気の浸潤状況がわかるようになった点も見逃せません。遺伝子検査(PCR法)といえ、近年では人で流行した新型コロナウイルスの、だ液を用いた検査でお聞きになった事があるのではないのでしょうか。

このだ液を用いた検査、実は養豚場で、PRRSやサーコなどの状況把握として普及してきています。具体的には豚房にロープを一定時間たらしだ液を回収し遺伝子検査を行います。通常管理を行う中でできる、豚にとっても人にとってもやさしい方法です。そこで、だ液で豚群の病気の状態がわかるのであれば、他の材料を用いた検査も可能ではないかという発想が生まれてきました。

新型コロナが流行していた時期、一部地域では下水中に含まれるコロナウイルスをモニタリングして感染状況把握に活用していました。この技術を応用し、養豚場の糞便や尿を検査材料として用いた検査が、近い将来可能となるかもしれません。

サーコの話に戻ると、平成18年(2006年)前後より全国的に

サーコウイルスに関連する事故が増加し、全国的な肉豚出荷頭数の減少という形として現れました。平成20年(2008年)前後にワクチンが発売されて以降、全国的な子豚へのワクチン接種によって、サーコウイルスが関与する事故はあまり発生しない状態が維持されてきました。農場での子豚・肉豚ステージでサーコの遺伝子検査を実施しても遺伝子量が検出限界以下というのがほとんどのケースでした。

しかしながらここ数年、子豚段階でサーコワクチン接種をしても離乳・肥育時期に事故が増加するケースが見られるようになっていきます。事故由来豚からはかなりの量のサーコ遺伝子とレンサなどの菌が検出されます。サーコワクチンの効果が期待するほど発揮できていないのか、同時期に接種するワクチンの影響が強くて出ているのか、レンサなど他の病原体が優勢となりサーコまで影響を受けた結果なのか、様々な事例の調査・検討が必要な時期となっています。その際、病原体側の要因だけではなく、飼養管理面など豚側・環境面での要因も含めて検討を行うことで解決に導ければと考えています。

最後に、豚熱に関して触れたいと思います。現在、本州～九州までが豚熱ワクチン接種推奨地域となりワクチン接種が実施されていますが、残念ながらワクチン接種をしている地域の養豚場において散発的に豚熱が発生しています。豚熱対策はワクチンを接種すれば防げるものではありません。やはりいつでも豚舎に豚熱ウイルスは侵入してくる可能性があるという認識をもつことが重要です。SPF豚認定農場では防疫設備・防疫管理基準が作成され、そのルールが順守されています。しかしながら、ルールは最低限守るものです。それぞれの農場で、人・物・野生動物からの豚舎へのウイルス持ち込み低減に向けてさらなる必要な取り組みはないか、従業員・関係者で意見を出し合い対策を実施していく時期にきています。

事例発表、講演も 多彩な内容で好評 SPF豚セミナーを開催、懇親会も



協会では、令和6年度のSPF豚セミナーを

令和7年1月22日（水曜日）午後1時から

KKRホテル東京（東京都千代田区）にて開催しました。

来場60名、オンライン視聴30名と、昨年度を上回る多くの方に参加いただきました。

坂口一平・協会副会長の司会のもと、鷺谷敏一・協会会長の挨拶に続いて、渡辺秀樹副会長から恒例の認定CM農場生産成績年次報告がありました。認定農場の母豚数は72,671頭、GGP・GP農場とCM農場合わせて母豚を飼養する農場数は119戸となり、全国飼養戸数の5%となりました。全国で廃業が進む中、SPF豚農場の持続可能な生産が発揮されていることを示すものでしょう。CM農場の生産成績は、総合生産指数でほぼ横ばいとなっており、これは多産系高能力種豚による産子数や肉豚出荷頭数の改善がある一方で、A薬品（抗生剤）の使用金額が増加していることが要因でした。A薬品の使用については、例を示し同一の薬品での金額の増加など、農場ごとに分析したうえで適正な使用に努める必要があることが指摘されました。

つづいて、生産成績最優秀CM農場表彰式を執り行いました。ホクレンピラミッドの有限会社高橋畜産が総合生産成績部門最優秀賞（3年連続3回目）を、全農畜産サービスピラミッドの農事組合法人ジョイフルファーム八幡平が商品化頭数最優秀賞（初受賞）を受賞しました。高橋畜産は高橋良平代表取締役と奥様の佐和子取締役役に、ジョイフルファーム八幡平からは阿部正樹組合長と西村幸広農場長にご出席いただきました。

濱岡隆文選考委員会委員長は講評で、A薬品の使用について解説を加えられました。豚が病気になることは病原体（細菌性）が豚の抵抗力の許容範囲を超えて増殖・蓄積

した結果であり、正しく診断しA薬品で治療することは当然である。ただし、同時に現場を分析して環境要因（飼料給与、給水、温度、湿度、空気など）を改善することで、A薬品をいつまでも使い続けることなく、回復させることが重要である、と強調されました。

両農場には、会長から表彰状とトロフィーが授与された後、好成績を維持するための農場管理のポイントを発表していただきました。

高橋畜産の高橋代表からは、衛生管理の基本として、豚房の空舎期間の確保、長靴の履き替え、人工哺育の活用と十分な保温、有効な飼料添加物の利用について説明していただきました。さらに近年は北海道でも夏の暑さが厳しくなったため暑熱対策に力をいれ、その結果肥育豚のDG、受胎率や離乳頭数の改善ができたということです。

続いて、ジョイフルファーム八幡平の西村幸広場長が発表されました。農場で実践していることとして強調されたのは「基本に忠実であること」。注射器の扱い方や母豚の個体情報、休憩室の使い方に至るまで細かいルールを設定、社員間で差ができないように共有しているということです。また、母豚1,500頭でスタートして現在1,420頭規模ですが、出荷体重をあげることで出荷肉量が変わらず、そのため管理や糞尿処理の負荷が減少、その結果社員への負荷も軽減。無理をしない農場運営を心がけている、とのことでした。両農場に共通しているのは、豚にとってウェルフェアな状態を作り出していることが、ひいては働く人のウェル

フェアも達成しているということです。高水準の成績が保たれている要因であることがよくわかりました。

休憩をはさんで2題の講演が行われました。まず、昨年に引き続き、薬剤耐性（AMR）対策にする情報提供として、農林水産省消費・安全局畜産安全管理課の出口亨係長から、動物用抗菌薬の販売量や薬剤耐性率の現状、農水省で進めている電子指示書システムの開発による使用記録の効率化について紹介していただきました。

最後に、京都大学の廣岡博之名誉教授から「畜産の必要性や将来について考える」と題して講演いただきました。廣岡先生は「霊長類の祖先が、動物の肉を食べることで進化し今日の人類になった。類人猿の消化管の解剖学的特徴からも、ヒトは大腸の割合が小さく、小腸の割合が大きくなっている。最近では、ビーガンやベジタリアンが増えているが、畜産物（動物性たんぱく）はヒトの健康維持に有用であるとの意見もある。戦後日本人の体格が向上したのも畜産物の摂取が増えたと考えられている。最近の知見では、畜産物のたんぱく質はアミノ酸としてヒトに利用されやすいことも分かっている。」と解説、また「畜産物がないシミュレーションでは、リン脂質や脂肪酸、ビタミン、ミネラルの一部が不足する事態となり、地球温暖化ガス（GHG）排出は減らせるが、堆肥が無くなり化学肥料に頼らなければなくなるといった報告もある。とくに、牛によるメタンが問題にされるが、メタンは12年で二酸化炭素に変換され植物の光合成に利用されるので、化石燃料からの二酸化炭素が眠っていたのをどんどん吐き出して溜まっていくのとは異なり、循環していくということで一概に悪者扱いする必要はない」としたうえで「アニマルウェルフェア（AW）や環境負荷低減を明記したラベルのある畜産物を消費者が評価するという調査結果もあり、やはり取り組むべき課題と考える。今後持続可能な畜産業を営んでいくため、畜産物摂取の健康への有用性や環境負荷の低減、AWの視点からの取り組みを進め、家畜・生産者・消費者のすべてがwin-winになる生産システムの構築が必要である」とまとめてくださいました。

なお、協会ホームページでは、当日の講演の動画を公開しておりますので、ぜひご覧ください。

セミナー終了後には昨年に引き続き懇親会が行われ、セミナー会場参加のほぼ全員、60名近い方にご参加いただきました。認定農場産豚肉のしゃぶしゃぶや骨付きハムが供され、大好評でした。あちこちで人の輪が広がり、貴重な情報交換の場となったようです。

今回も多彩な内容で、参加者にも「よかった」との声をいただきました。講師、表彰農場、関係各位に心より感謝申し上げます。ご参加いただいた方々、誠にありがとうございました。



渡辺秀樹・協会副会長



濱岡隆文・選考委員会委員長

総合生産成績部門最優秀賞を受賞した(有)高橋畜産の高橋洋平社長と佐和子取締役



商品化頭数部門最優秀賞受賞の(農)ジョイフルファーム八幡平の阿部正樹組合長(左)と西村幸広農場長



出口 亨・農林水産省消費・安全局畜産安全管理課係長



廣岡博之・京都大学名誉教授

SPF豚農場と飼養頭数の分布 (2025年3月現在)

前年度に比べ農場数・飼養母豚数ともに微減となった。退会農場には小規模の肥育専門農場が含まれている。大型農場の認定休止があった中で飼養頭数の減少が360頭程度だったのは、前年度新規農場のフル稼働や中規模農場の増頭が要因となっている。地域別では中四国地区の飼養頭数の増加が目立つ。全国の飼養母豚数75.8万頭(令和6年2月現在、畜産統計)に占める認定SPF豚の割合は9.5%と、前年度を0.1ポイント上回った。飼養戸数は5%だった。

表1 認定農場の分布

飼養規模(頭)	北海道	東 北	関 東	北信越	東海近畿	中四国	九 州	合 計	飼養母豚数
99 以下	2	0	2	0	0	2	0	6	362
100 ～ 299	3	5	16	3	0	1	4	32	6,796
300 ～ 599	4	3	6	2	0	6	8	29	11,751
600 ～ 999	1	6	6	1	1	5	10	30	24,338
1,000 以上	2	9	3	0	0	1	7	22	29,060
計	12	23	33	6	1	15	29	119	72,307
子豚育成・肥育専門	2	4	16	1	1	7	19	50	
合計	14	27	49	7	2	22	48	169	

飼養母豚総頭数	7,640	18,249	14,230	2,159	763	8,401	20,865	72,307
---------	-------	--------	--------	-------	-----	-------	--------	--------

表2 認定農場および飼養母豚数の推移

年度	2020		2021		2022		2023		2024	
地域	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数
北海道	13	7,653	13	7,837	13	7,900	12	7,607	12	7,640
東 北	28	22,704	27	22,377	23	20,257	23	19,502	23	18,249
関 東	40	14,890	40	15,059	37	14,782	33	13,930	33	14,230
北信越	7	2,345	6	2,079	6	2,107	6	2,114	6	2,159
近畿東海	2	738	2	703	2	710	1	752	1	763
中四国	13	6,724	15	7,446	14	6,962	15	7,412	15	8,401
九 州	31	22,602	30	21,747	31	21,763	31	21,354	29	20,865
子豚育成・肥育専門	45		49		50		52		50	
全 国	179	77,656	179	77,248	176	74,481	173	72,671	169	72,307

注) 例年同様、やむを得ない事情により認定を停止(休止)している農場については、戸数は集計に含め、頭数は含めない。GGP・GP17農場および子豚育成・肉豚肥育専門農場を含む。

CM認定農場の生産成績 (2024年度)

2024年度生産成績集計農場数は一貫が前年度より1農場増加し90農場、繁殖と肥育専門農場数は前年度と変わらなかった。

一貫生産農場では、農場飼料要求率とA薬品費が前年度より改善したため生産指数の平均が0.7アップして107.36になった。繁殖専門農場Ⅱと肥育専門農場Ⅱではそれぞれ前年度に比べて、生産指数の平均はわずかに減少した。

表1 一貫生産農場

	農場数	母豚頭数	生産指数	農場回転数		農場飼料要求率		出荷肉豚頭数 / 母豚		A 薬品 ¹⁾ 費(¥) / 肉豚	
	90	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数
基準値			100.00	1.70	15.00	3.19	25.00	21.35	40.00	286	20.00
A ²⁾	23	680	125.05	1.90	16.80	2.94	26.92	25.26	47.33	86	34.00
B	23	593	111.51	1.88	16.55	3.04	26.16	24.87	46.60	254	22.20
C	22	690	101.17	1.69	14.94	3.15	25.35	23.32	43.68	326	17.20
D	22	425	90.74	1.58	13.91	3.28	24.31	20.39	38.21	367	14.32
最高成績			138.50	2.26	19.94	2.53	30.17	28.70	53.77	2	39.86
最低成績			80.62	1.26	11.12	3.63	21.55	15.49	29.02	448	8.67
平均値		598	107.36	1.77	15.57	3.10	25.70	23.50	44.02	256	22.07

1) 抗菌剤 2) 生産指数の上位から4等分にクラス分けした

表2 繁殖専門農場-Ⅱ (分娩・離乳後、子豚を育成し出荷している農場)

	農場数	母豚頭数	生産指数	分娩回数 / 母豚		離乳頭数 / 母豚		出荷子豚数 / 母豚		A 薬品費(¥) / 子豚	
	11	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数
基準値			100.00	2.30	20.00	22.53	20.00	21.43	40.00	160	20.00
A	3	1,318	126.60	2.46	21.42	26.53	23.55	26.07	48.66	56	32.96
B	3	406	113.22	2.26	19.65	24.15	21.44	22.46	41.92	78	30.21
C	3	1,002	100.80	2.31	20.12	24.79	22.01	24.58	45.89	218	12.79
D	2	819	85.13	2.13	18.53	20.46	18.16	20.26	37.82	235	10.63
最高成績			128.91	2.48	21.57	28.37	25.18	27.88	52.04	13	38.38
最低成績			80.68	2.01	17.48	18.63	16.54	18.50	34.53	247	9.13
平均値		892	108.38	2.31	20.06	24.30	21.57	23.62	44.09	139	22.65

表3 肥育専門農場-Ⅱ (繁殖専門農場-Ⅱまたは子豚育成農場から子豚を導入し、肥育している農場)

	農場数	出荷頭数	生産指数	農場飼料要求率		肉豚出荷率		A 薬品費(¥) / 肉豚	
	13	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数
基準値			100.00	3.30	55.00	97.50	25.00	126	20.00
A	4	7,964	126.88	2.98	60.33	98.87	38.65	76	27.90
B	3	10,853	107.26	3.60	49.94	97.35	23.50	39	33.81
C	3	11,625	96.98	3.44	52.67	97.71	27.07	143	17.25
D	3	7,411	68.09	3.44	52.72	95.00	-0.03	155	15.40
最高成績			136.94	2.59	66.83	99.08	40.80	10	38.41
最低成績			23.08	4.61	33.17	90.03	-49.70	190	9.84
平均値		9,348	101.88	3.34	54.41	97.36	23.55	101	23.92

表4 肉豚または子豚1頭あたりのA薬品(抗菌剤) 費

一貫生産農場

薬品費 / 肉豚	農場数	割合 (%)
100 円未満	16	17.8
100 円～ 199 円	13	14.4
200 円～ 299 円	18	20.0
300 円～ 399 円	35	38.9
400 円～ 450 円	8	8.9
計	90	
基準値 (286円) 以内	46	51.1

繁殖専門農場 (繁殖-Ⅱ)

薬品費 / 子豚	農場数	割合 (%)
100 円未満	6	54.5
100 円～ 199 円	1	9.1
200 円～ 250 円	4	36.4
	11	
基準値 (160円) 以内	6	54.5

肥育専門農場 (肥育-Ⅱ)

薬品費 / 肉豚	農場数	割合 (%)
100 円未満	6	46.2
100 円～ 200 円	7	53.8
計	13	
基準値 (126円) 以内	8	61.5

第21回

農場バイオセキュリティ
強化のための
最新情報



土壤の消毒効果

アニマル・バイオセキュリティ・
コンサルティング(株)

三宅眞佐男

農場で消毒薬を散布する場所は畜舎内の他、車両や農場出入口、場内通路、畜舎周辺などですが、舗装面以外の土壌表面にも散布される場合があります。このような土壌消毒はどの程度効果があるのか確かめました。

短期的な消毒効果は土壌の成分や吸水性、薬剤の吸着性などの物理的性質のほか、pHほかの化学的性質などの複雑な影響を受けると考えられます。ここでは単純化した模擬実験の結果を紹介します。材料は山土を採取し、篩を通した後滅菌し、乾燥した土壌です。供試菌は鶏肉由来の大腸菌群を生理食塩水に希釈してから1検体あたり20mlを土壌43gに混合しました。これを外径5cm、内径4.6cm、長さ5cmの塩ビパイプに圧力をかけて詰めて立位で供試しました。消毒溶液は表の5種類を用意し、各パイプの上面に10mlずつ散布しました。そして散布24時間後に地表面と底面から各々0.5gを採取し培養後残存菌を調べました。除菌率は蒸留水を用いた対照区の菌数(対数値：地表8.96～9.33、底面8.85～9.46/0.5g)との比較で算出しました。

結果は図のとおりです。地表面の消毒効果は過酢酸製剤(3桁除菌)とグルタルアルデヒド製剤(2桁同)、そして石灰乳(1桁同)が90%以上除菌し有効でした。逆性石鹼液と複合塩素剤は90%未満で無効でした。石灰乳は地表面のほか供試消毒薬のうち唯一、5cmの土壌を通過した底面においても90%以上除菌し有効でした。

石灰乳はpHが12以上の高アルカリによって消毒効果を発揮しますが、このアルカリ性は石灰乳が乾燥すると消失します。しかし、雨などで再度濡れると復活することを確認しています(本誌No.89本連載11)。他の消毒剤では見られないこのような復活は消石灰が炭酸カルシウムに変化するまで続く特徴があります。

また、この実験では実施していませんが、発泡剤を消毒薬に混合して噴霧すると噴霧した部分が分かり易くなると共に、泡と結合した消毒薬が土壌表面に長く残存し、消毒効果が増強されることが確認されています(本誌No.87本連載No.9)。

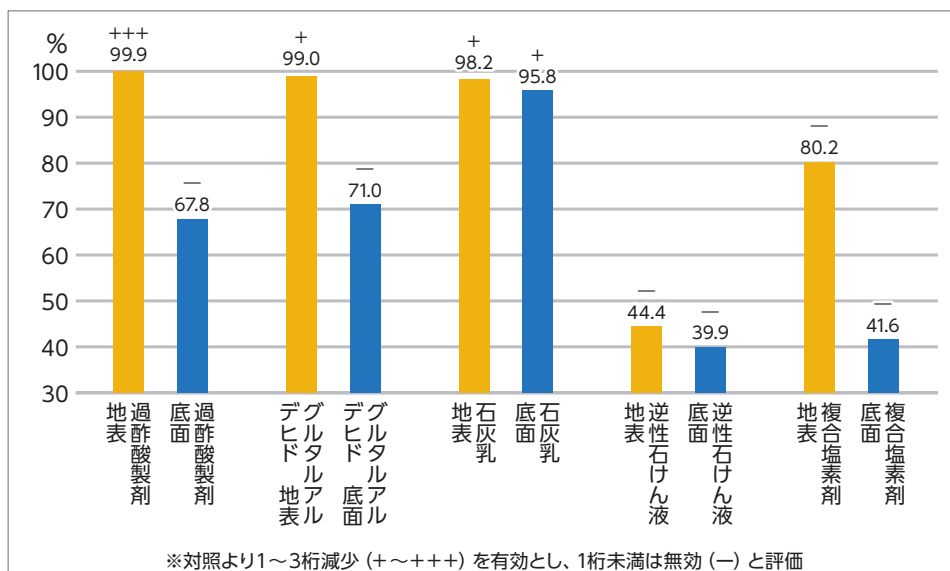
なお、この実験は横関正直博士と協力して実施し、畜産の研究誌¹⁾に発表したものです。

1) 畜産の研究72-1 2018

- 1 過酢酸除菌剤「アバサイドS」220倍(過酢酸250ppm)
- 2 グルタルアルデヒド製剤「グルタプラス」200倍
- 3 石灰乳「局方90%消石灰の10%」水溶液
- 4 逆性石けん液「クリアキル100」500倍
- 5 複合塩素剤「ワイプアウト」500倍

※No.1と5は現時点では他の製品に置き換わっていますが、内容は同じです

表 使用薬剤溶液一覧



※対照より1～3桁減少(+～+++)を有効とし、1桁未満は無効(ー)と評価

図 薬剤別除菌率

協会からのお知らせ

●小磯認定委員が退任、感謝状を贈呈

SPF豚農場認定委員会学識経験者委員の小磯孝氏(元一般社団法人日本養豚協会専務理事)が昨年度末をもって委員を辞任されました。小磯さんは大学卒業後、1985年に社団法人日本種豚登録協会(現日本養豚協会(JPPA))に入会、JPPA歴代の会長を支え、養豚事業推進のため活躍されました。日本養豚学会はじめ20以上の組織の評議員や委員を歴任され、養豚界においてなくてはなら

ない存在でした。協会の認定委員には平成11年(1999年)に就任、25年以上の長きにわたって協会認定事業にご貢献いただきました。協会では、多大なる貢献を讃えるべく感謝状を作成、3月4日、協会事務所において、坂口一平・協会副会長、下山 安・協会理事同席のもと、鷲谷敏一会長より感謝状と記念品を贈呈いたしました。長い間本当にお世話になりました。ありがとうございました。



●代議員・理事の交代

組織内人事異動によりホクレンピラミッドの代議員・理事が金内一浩氏から伊藤克浩氏に交代となりました。

●理事会を開催しました

3月25日(火)、協会事務所において令和6年度の理事会をオンライン併用で開催し、6月の定時総会に諮る議案等について協議いたしました。

●次世代研修会を開催しました

3月18日(火)、昨年度に続いてピラミッドおよび関連組織の若手職員の交流を目的とした「次世代研修会」を開催いたしました。詳細は次号でお知らせいたします。



●電子指示書システムの運用が開始されます

農林水産省消費・安全局の事業「飼養衛生管理等支援システム」の一環として4月1日より、「電子指示書システム」の運用がスタートしました。

電子指示書システムの概要、利用申請の手続きについて、農水省ホームページで情報公開していますのでご参照ください。

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/vmed-record.html>

認定情報

●2025年3月認定農場

(有効期間：2025年3月6日から2026年3月末日まで)

秋田県・(株)シムコ大館GGPセンター、全農畜産サービス(株)由利本荘SPF豚センター、全農畜産サービス(株)秋田大仙SPF豚センター、(有)十和田湖高原ファーム、**宮城県**・(株)シムコ岩出山事業所、**茨城県**・(有)中村畜産、全農飼料畜産中央研究所、同実験動物豚舎、**千葉県**・(株)シムコ館山事業所、鈴木治彦養豚、(株)スターピッグファーム、同肥育農場、(株)飯田ファーム、(有)ビギー・ジョイ第2農場繁殖農場、同肥育農場、(有)伊藤養豚飯岡農場、(有)鍋木ピッグファーム、宝理養豚繁殖

※次回認定委員会は2025年6月5日(木)の予定

農場、同肥育農場、**長野県**・(農)エスピーエフこがねや第二農場、JA全農長野SPF繁殖センター、JA大北白馬アルプス農場、**富山県**・(株)シムコ八尾GGPセンター、**愛知県**・(株)知多ピッグ前山農場、同美浜農場、**島根県**・奥出雲ファーム(有)、**熊本県**・全農畜産サービス(株)西日本原種豚場、(有)やまとんファーム、(有)ピッグファーム陳、(株)佐々牧場、同第二農場、**鹿児島県**・鹿児島いずみ畜産(株)出水農場、同阿久根農場(以上33農場)

プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



SPFポークの 肉玉チャーハン

●レシピ提供●

どさんこ酒場森町しげぞう 八重洲口店(東京都中央区)

高瀬 謙一郎

今回は、定番のチャーハンに味付け豚肉がたっぷり乗った、ボリュームたっぷりのメニューを教えてくださいました。シンプルなチャーハンにしっかりした味付けの豚肉、多彩な味が楽しめそうです。チャーハンもバラバラに仕上がるかも。ぜひお試しください。

●材料●

— 味付け豚肉の準備 —

SPF ポークモモスライス 10 に対し

市販のジギスカンのたれ 1 の割合で漬け込みます。

(1人前)

味付け豚肉 80 g

ごはん 120g

溶き卵 1 個分

長ネギ 10 g

塩・こしょう 適量

油 適宜

紅生姜 5 g

●つくり方●

- ① フライパンを熱々から油を入れ、溶き卵を流し込みます。
- ② 卵に火が入る前にごはんを入れ、ほぐしながら炒めます。
- ③ ②を塩・こしょうで味をつけお皿に盛ります。
- ④ フライパンに油を足して味付け豚肉を炒めます。
- ⑤ ③に④のをせ、刻んだ長ネギと紅生姜を添えたら完成です。

★高瀬シェフからのアドバイス

チャーハンとは具が卵だけ、味付けも塩・こしょうとシンプルですが、味付け豚肉との相性は抜群です。

編集 後記

中央線の快速電車でグリーン車(サロ)が連結され営業運転が開始されています。首都圏の近郊通勤電車の二階建てサロは、常磐線、東海道線、横須賀線などにも連結されていますが、中央線のサロは少し進化しています。乗降扉が両開きになって迅速な乗り降りができます。進化し続ける各ピラミッドの種豚のようですね。おかげさまで協会だよりも次号で100号の節目を迎えることとなりました。創刊から四半世紀、協会だよりも進化するようがんばります。(宅乱家半角斎)

足下の勾配が気になります。これまで気にも留めなかった道も微妙に坂になっていることに気づきます。勾配だけでなく、僅かなデコボコやツルツル具合も気になります。ずいぶん多くの人が杖を頼りにしていることにも気づきました。これまで見ていても感じていなかったことが色々あった訳ですが、これから見えてくるものもまだ沢山あるに違いないと思えば楽しみになります。そろそろ蜻蛉も羽化する頃、イワナも動き始めます。(岩魚)



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは

日本SPF豚協会の

登録商標です

日本SPF豚協会だより

第99号 2025年4月1日発行(季刊)

発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町 1-8-2

TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376

e-mail:j.spf.a@nifty.com

http://www.j-spf.com/

発行人 鷺谷 敏一

編集人 小林 一彦